

## コロナワクチン被害ご遺族のお話

今回はワクチン被害ご遺族の福田さんという女性のお話を聴きました。旦那さんはコロナワクチン接種後に難病にかかり、昨年5月に亡くなったということです。何度も声を詰まらせながらも辛い話を丁寧に話してくださいました。

今でも「夫を返して欲しい」という思いは断ち切れない。生きる望みがなくなって、何度も「自分も夫のもとに行こう」と思ったが、色々な人のお陰で何とか生きて来られた。夫は亡くなってしまったが、後遺症で苦しんでいる方もたくさんいらっしゃる。本当に辛いと思う。先日厚労省に行って街宣活動をしてきたが、職員は誰一人立ち止まらない、目も合わせない。本当に人の心があるのだろうか。救済も思うように進んでいないし、本当に辛く、悔しい思いをされていると思う。自分も少しでも力になればいいと思い、活動をしている。本日はありがとうございました。と話されました。

会場の皆さんも真剣に耳を傾けてくださいました。皆さん、思いは同じだと思います。

福田さん、辛い思いを抱えながらも、話を下さり本当にありがとうございました。

## ワクチン被害で困っている人にあることができること

患者の会の神谷さんにお話していただきました。まずワクチンの健康被害について知ろうと会場に足を運んで下さったことが何よりありがたいと話しました。そして以下の通り、被害者が辛いと思いがちな言葉について説明した後に、被害を受けて困っている人にかけて欲しい言葉、社会的にできることについて語りました。

## 後遺症患者、被害者遺族の辛い気持ち

多くの後遺症患者が辛いこととして、医師や周囲の人に体調不良を信じてもらえないこと、体調不良が気持ちの問題と言われてしまうことがあります。さらに体が動かず楽しみや生き甲斐が失われていく心境であること、良くなる兆しも治療法も見いだせず希望が見えないことが患者を辛くさせる気持ちです。

大切な人をワクチン接種で失ったご遺族の気持ちとしては（人によるものの）、ものすごく深く何度も押し寄せる後悔の思い、突然のことで大切なことを伝えられなかった悲しみ、さみしさ、生き

ている意味が分からなくなる、ワクチンとこんな目に遭わせた国が被害を認めないことへの許せない思いが辛いのです。

### 後遺症患者、被害者遺族にとって辛く思える言葉

被害者と遺族にとって「ワクチンのせいじゃない」「救われた人の方が多い」、また逆に「自業自得」と言われることが本当に辛く刺さります。また一見良い言葉である「(あなたのことは)わかるよ」「がんばって」「前を向いて!、クヨクヨしないで」という言葉は、実は辛い思いの方を追い詰める言葉でもあるのです。

被害を受けた子どもたちは、医師から「体調不良は気のせい」「どうせ昔から不登校だったんでしょ」「僕がワクチンを打ったわけじゃないから関係ない」等、信じられない心無い言葉を浴びせられていました。

### 我々ができること

辛い気持ちの方が傍にいるとき、何も言わずそばにいて、否定しないで気持ちを聴いてくれるだけで救われます。泣きたいときは泣かせてあげて、困っているときはいつでも力になると伝えてください。また、「眠れてますか？」などの気遣ってくれる言葉、「そんなに辛いのによくがんばってきたね」などありのままの自分を認めてくれる言葉が嬉しいのです。その他、ワクチン被害について周囲の方に伝えてもらうこと、メディアに建設的な意見を送ること、寄付等に協力していただくこと、図書館にワクチン被害関連の本をリクエストするなどの方法も助けになります。次回の勉強会のことを周りに伝えていただくこと（次回は来年2月23日、午後2時からいきいきホールで開催）、そして温かく見守って下さると有り難いことを話しました。